



宗四小だより

10月号

志木市立宗岡第四小学校
志木市上宗岡1-1-2
048-473-5250



<http://www.mune4syo.ed.jp/>

児童数 589名 令和4年9月30日発行

目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』



「通知表の配付を前にして」



校長 高柳 政行

身長が伸びて脳が大きくなる子ども時代、脳がいろいろなことに興味をもち、集中して学んでいる場面や、話し合いをして学びを深めている場面、また、時に学習に飽きてしまう場面など、日々の授業場面で見せる子ども達の姿があります。

このような日々の各教科・領域等の授業の積み重ねの中で、子ども達は①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学ぶ態度や人間性などの学力を身につけていきます。その様子を伝える一つの手段が10月7日に配付する通知表です。



通知表を前にすると、ついお子さんの欠点に敏感になってしまうものです。例えば「算数が苦手」「宿題をしない」「忘れが多い」からとレッテルをはりがちです。欠点に注目しすぎると、自己肯定感が育ちにくい状況をつくってしまいます。親の言葉で自分はこうだと思い込んでしまい、思考力がフリーズしてしまうこともあります。



まずは、お子さんの良い点や頑張った点を認めてください。例えば、「図工での表現力が豊か」「体育の跳び箱でみんなのお手本となった」「〇〇係りの仕事を熱心に行った」などの良さを話題にしてください。親から認められたり、ほめられたりすることで自己肯定感が高まり、自分の良さをさらに伸ばそうとする意欲が育ちます。苦手なことにも挑戦しようとする気持ちも育ちやすくなることでしょう。

また、高学年になると子ども達が反抗期を迎えるようになっていきます。これまで子ども達にとって、親の話は、言葉や社会のことなど様々なことを教えてくれる大事なものだはずでした。しかし、反抗期が近づくと「親の話に頼ってばかりいたら、親の声がなくなった時に生きていけなくなってしまう」と親の話を生理的に拒むようになっていわれています。それは本能的なものです。つまり、お子さんが自立していこうとする力が育ってきている表れです。ですから、「言うことを聞かなくなった」とレッテルをはることに注意が必要だと考えます。



ここでお願いします。子ども達は、思考力の基本である読解力が苦手な傾向があります。「一つだけの答えを求め、わからないともうダメ」とならず、「いろいろな考え方がある」と思えるように各ご家庭でも、働きかけをお願いします。